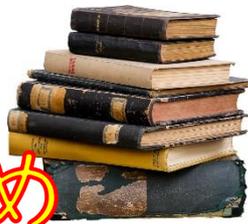


学問のすすめ



令和3年11月24日(水)
心を育む生徒指導通信No.7【通算39号】
作成者・教諭 花園修兵

11月もあっという間ですね。秋の色づきもなくなり、いよいよ冬のシーズンが始まります。校内では12月上旬から2学期期末考査が実施されます。新人戦も終わり、ここからは学習に切り替えていきたいところです。そこで、今回のテーマは「**学問のすすめ**」学問のすすめと言えば・・・？ そうです。**福沢諭吉**です。福沢諭吉が教えてくれた「**学び**」の大切さを今回一緒に考えてみたいと思います。

福沢諭吉と言えば、生徒の皆さんに一番親しみ深いのは・・・そうですね。一万円札でしょう。この一万円札が2024年に福沢諭吉から誰に変わるか知っていますか？ NHK大河ドラマでも話題の渋沢栄一に変わります。この渋沢栄一も素晴らしい偉人ですが、今回は1984年からこれまで一万円札に描かれた福沢諭吉の「**学問のすすめ**」を考えていきたいと思います。



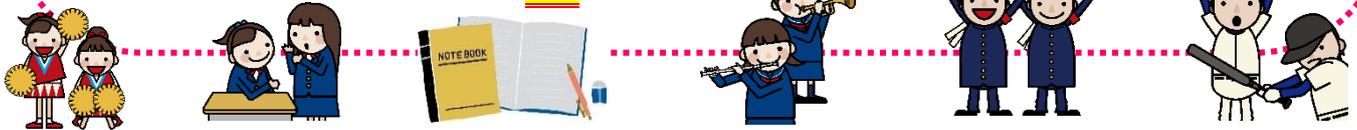
その冒頭は「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずといへり」から始まる有名なものです。この天は人によって神様かもしれませんし、この世の摂理かもしれませんが、あの明治という時代にはっきりと言いつつたなと思います。でも「だからみんな平等だ」と言っているわけではないんです。

「・・・にも関わらず、なんで世の中にはこんなに貧富の差や生活の差が存在するんだ。しかもどうして生涯においてそれを逆転できないのか」と。つまり福沢諭吉は「それは学問をしないからだ。だから学問をしよう」と言っているんです。

生まれ持った性格も違うし、状況も環境も違う。だけど、機会は平等にあり、どんな状況で生まれても逆転できるし、一生懸命頑張れば報われる。でも報われないとすれば「それは学問をしないからだ」と言っています。でも頑張っているのに、世の中には「うまくいく人」と「うまくいかない人」がいる。友人関係や部活動だってそうです。だから、「うまくいくために学問しましょう」と福沢諭吉は言っています。

福沢諭吉が生きた江戸時代では職業が選べませんでした。小作人の家に生まれた人は一生小作人です。生徒の皆さんは想像できますか？ 一生小作人で人生が終わって時代的に逆転するなんてことは難しかったんです。しかし、時代が変わり明治になりました。だから「誰もが学んでいい時代になった。なのになぜ学ばないの？ 学べば今の自分の状況をどんどん変えて良くしていけるのに」と教えてくれたんです。

これは今の時代にも通じますよね。いつの時代もどんなに時代が変わっても、新しい扉を開く鍵はなんでしょか？・・・「**学び**」です。では、自分自身が次のステージに行くために（前回の成績より良い点数をとる！ 部活動でベスト8に入る！ 公式戦で1勝する！ 友人関係を良好にする！・・・など）不可欠なものは何でしょうか？・・・やっぱり「**学び**」ですよ。



これまでの時代の流れは30年、40年変わらないものがたくさんありました。ところが、今は時代のサイクルがあまりにも早くなっています。だから「これをやっておけば大丈夫」と言い切れるものがなくなってしまったんです。「10年後もあり続ける仕事」さえ、なかなか見えない時代です。それが今の時代の難しさです。では、学びの必要性はなくなったか・・・？ なくなってません！ 私たちは「学んで獲得したもの」で幸せになれるのではありません！ 「**学び続けること**」で幸せになれるんです！ 学び続けることで、成長し続ける穴高生であることを願います。3年生！ ラストスパート！ 学んで学んで学んで挑戦！！

穴高 ありがとうの輪 No.14

2B・Y.Y さんから 2A・K.I さんへ ありがとう。

いつも、どんな話でも聴いてくれて、笑顔にしてくれてありがとう！！

これからもお互い何事にも頑張っていこう！！

